キソドリル⑨「接続する語句」を使いこなそう

1

①「勉強が嫌い」⇔「国語だけは好き」
　逆の事がらを並べているため**逆接**の関係です。
②「走った」←「寝坊したから」
　補足しているため、**説明・補足**の関係です。
③「焼き鳥」・「焼き肉」
　同様の情報を比べているため**対比・選択**の関係です。
④「髪を切った」→「誰だかわからなかった」
　結論や結果を示しているため順接の関係です。
⑤「小学校が同じ」＋「塾も同じ」
　情報を付け加えているため**並立・累加**の関係です。
⑥「最近は暑い」／「昨日は何をしていたの？」
　無関係な事がらが続いているため**転換**の関係です。

2

①順接「だから」のあとには、前の文をふまえた**結果**がきます。**「定期テストの内容が難しい」ことが理由になるような文**を書けていたらOKです。
他の例「小学生の頃の倍以上の勉強時間が必要になり、なかなかゲームができない。」
「塾に通ったり先生に教えてもらったり、自分から積極的に勉強する必要がある。」

②逆接「しかし」のあとには、前の文と反対の事がらがきます。**「定期テストの内容が難しい」というネガティブな内容なので、そのあとにポジティブな内容が書けている**とOKです。
他の例「定期テストの日は午前中の間に帰ることができるため、少しワクワクする。」
「頑張れば頑張った分、先生にほめてもらえるのでやりがいがある。」

③並立・累加「そのうえ」のあとには、前の文を補足する情報がきます。**「定期テストの内容の難しさ」につながる補足情報**を書きましょう。
他の例「入試の内申点にも関わってくるため、真剣に取り組む必要がある。」
「教科ごとに求められる力が異なり、暗記だけでは対応できない問題も多い。」

ここで覚えていてほしいこと

　文と文などをつなぐ働きをするものを**接続する語句**というよ。
　小論文や説明的な文章を読み書きするときは、接続する語句に注目しよう。
　接続する語句が目印になって、その段落や文が何について述べているのかが推測できるよ。

～例～
　「例えば」から始まる段落は**例示や意見**、「なぜなら」から始まる段落は**根拠**、「つまり」から始まる段落は**まとめ**が述べられているよ。

　自分で文章を書くときも、この接続する語句を使うことですっきりしたわかりやすい文章になるよ。種類を覚えておこう。